

AIR BAG DEVICE FOR ASSISTANT SEAT

Publication number: JP11198752

Publication date: 1999-07-27

Inventor: NAKAJIMA MIHARU; YASUDA MITSUO

Applicant: SANKO GOSEI LTD

Classification:

- international: **B60K37/00; B60R21/20; B60K37/00; B60R21/20;**
(IPC1-7): B60R21/20; B60K37/00

- European: B60R21/215B; B60R21/205

Application number: JP19980007979 19980119

Priority number(s): JP19980007979 19980119; DE19991008702 19990226;
FR19990002459 19990226; GB19990004577 19990226;
NL19991011390 19990225; US19990256425 19990223

Also published as:

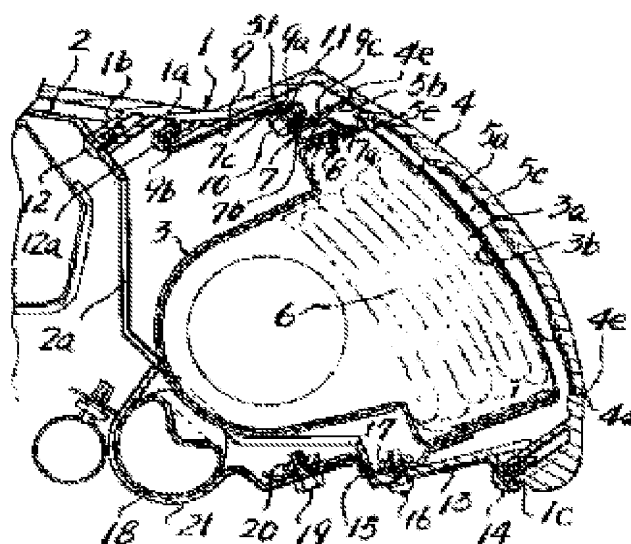


US6299198 (B1)
GB2347120 (A)
FR2790237 (A1)
DE19908702 (A)
NL1011390C (C)

[Report a data error here](#)

Abstract of JP11198752

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an air bag device capable of providing an attractiveness to an instrument panel cover part and protecting an occupant seated on an assistant seat at the time of collision. **SOLUTION:** A cover plate 4 opposed to an opening part 3a of an air bag case 3 is formed integrally with a cover 1 for increasing attractiveness, a weakened outer peripheral edge part 4d is formed on the cover plate 4, a main body 5a of a metal cover reinforcing plate is fixedly thermally caulked to the inner rear surface of the outer peripheral edge part 4d of the cover plate 4, a hinge part 5b projected upward from the main body 5a is fixed to the bag case 3 through a bracket 7 and, when an air bag main body stored in the case 3 is inflated and expanded, the hinge part 5b is bent upward to open the cover plate 4 so as to prevent sharp edges from occurring due to damage to the cover 1 and fragment from spattering.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-198752

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月27日

(51) Int. Cl.⁸

識別記号

F I

B 6 0 R 21/20

B 6 0 R 21/20

B 6 0 K 37/00

B 6 0 K 37/00

B

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平10-7979

(22) 出願日

平成10年(1998) 1月19日

(71) 出願人 391006063

三光合成株式会社

富山県西礪波郡福光町遊部800

(72) 発明者 中島 美治

富山県西礪波郡福光町遊部800 三光合成株式会社内

(72) 発明者 安田 満雄

富山県西礪波郡福光町遊部800 三光合成株式会社内

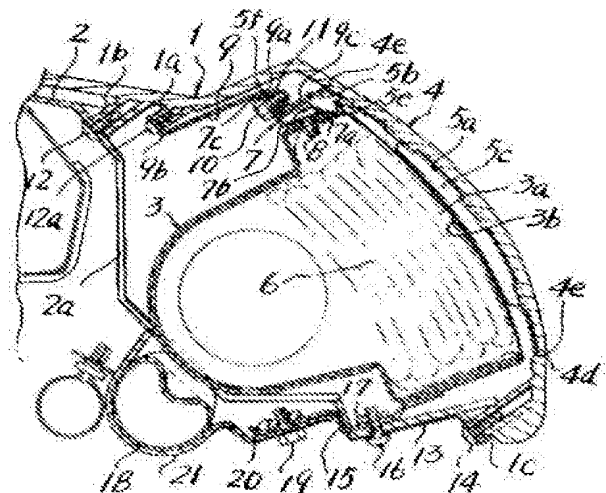
(74) 代理人 弁理士 門間 正一

(54) 【発明の名称】 助手席用エアバッグ装置

(57) 【要約】

【課題】 インストルメントパネルカバー部の体裁がよく、衝突時に助手席の乗員の保護ができるエアバッグ装置を提供する。

【解決手段】 エアバッグケース3の開口部3aと対向する蓋板4を前記カバー1と一体に成形して体裁をよくし、蓋板4に強度を低下させた外周縁部4dを形成し、蓋板4の外周縁部4dの内側裏面に金属製の蓋補強板5の主体5aを熱かしめ固定し、主体5aから上方に突出するヒンジ部5bをブラケット7を介して前記バッグケース3に固定し、このケース3内に収容したエアバッグ本体の膨張展開時にヒンジ部5bが上方に折れ曲がって、蓋板4を開くことで、前記カバー1の破損によるジャブなエッジの発生や破片の飛散を防止するようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 インストルメントパネルカバーの助手席と対向する部分の裏面側に、エアバッグ本体が収容してあるエアバッグケースの開口部を配設した助手席用エアバッグ装置において、前記バッグケースの開口部と対向する蓋板を前記カバーと一体に形成し、前記蓋板に強度を低下させた外周縁部の内側に金属製の蓋補強板の主体を熱かしめ固定し、前記主体から上方に延びる蓋補強板のヒンジ部から延びる部分をブラケットを介して前記バッグケースに固定し、前記バッグ本体の膨張展開時に前記ヒンジ部が折れ曲がって前記蓋板が開くようにしたことを特徴とする助手席用エアバッグ装置。

【請求項 2】 蓋板の外周縁部の周方向の全体にわたり、レーザ加工による多数の貫通孔を所要間隔で形成し、あるいは溝を形成してエアバッグ本体の膨張展開時に蓋板が確実に開くようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載の助手席用エアバッグ装置。

【請求項 3】 蓋補強板が、左右方向に長いほぼ長方形の主体の左右方向中央部上方に、主体より左右方向寸法が短いヒンジ部を延ばしたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の助手席用エアバッグ装置。

【請求項 4】 前記ブラケットは、全体をほぼコ字状に形成し、左、右両端部にはそれぞれエアバッグ本体と結合する取付孔を設けた取付部を有し、かつ各取付部の延長端を屈曲形成して左、右立ち上がり部を設け、該立ち上がり部の上端連結部を前記締結具および前記蓋補強板のヒンジ部に結合するようにしたことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置。

【請求項 5】 蓋補強板の主体に、上下方向に長い左右複数の補強用の凹部を所要間隔で形成し、前記凹部間および左、右端の凹部外側にそれぞれ多数の上下方向に複数組形成し、各長孔に合成樹脂の成形品からなるインストルメントパネルカバーの裏面部を熱かしめして融着固定したことを特徴とする請求項 1 ～ 4 3 のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置。

【請求項 6】 蓋補強板のヒンジ部から裏面側に曲げさらに上方に曲げて延びる立ち上がり部、および締結具の先端部をブラケットの左、右立ち上がり部に固定し、ブラケットの取付部をエアバッグケースの上部に固定し、締結具の基端部をインストルメントパネルカバーのボス部に固定し、前記カバーと前記コアと蓋板とによって囲んだ内部にエアバッグケースを保持させたことを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、自動車などの車両の衝突時に助手席の乗員を衝撃から保護して、安全性を確保するための助手席用エアバッグ装置に関するも

のである。

【0002】

【従来の技術】 従来、自動車などの助手席用エアバッグ装置として、図 1 に示すように、インストルメントパネルカバー 1 と、このカバー 1 の前側に配置したインストルメントパネルコア 2 とが適宜の手段によって固定され、前記カバー 1 と前記コア 2 との間の適所にエアバッグケース 3 が配置され、このケース 3 が前記カバー 1 に連結され、前記カバー 1 に形成した開口 1 a を塞ぐ蓋板 4 の外周縁部が前記カバー 1 の開口 1 a 外側表面に支持され、蓋板 4 の裏面に突出する上、下取付脚 4 a、4 b が前記ケース 3 に保持され、下取付脚 4 b の基部には括れ部 4 c が形成されている。また、前記ケース 3 と蓋板 4 とによって囲まれた内部には、折り畳んで小型にしたエアバッグ本体（図示省略）が収容され、これにインフレーター（図示省略）が接続されている。

【0003】そして、車両が衝突した際には、その程度をセンサが判断して、信号をインフレーターに送り、これの作動によってガスが発生し、このガスがエアバッグ本体内に供給されてエアバッグ本体が膨張展開し、助手席の乗員の胸部や頭部を拘束することで、乗員が衝撃から保護されるようにしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、前述した従来の助手席用エアバッグ装置は、インストルメントパネルカバー 1 に開口 1 a を形成し、この開口 1 a を別部品の蓋板 2 によって覆ってあり、前記カバー 1 から自動車などの車両の室内側に突出しているため、体裁がよくない。また、車両が衝突した際に、発生したガスの供給によってエアバッグ本体が膨張展開すると、蓋板 4 の下取付脚 4 b に形成した括れ部 4 c が破断して蓋板 4 が前側上方に急激に動くことで、助手席の乗員の保護が十分にできないという問題点があった。

【0005】この発明は、前述した問題点を解決し、インストルメントパネルカバーの一部によって蓋板を構成し、車両の室内側から見た前記カバー部分の体裁がよく、高級感が得られ、また助手席の乗員が受けるダメージを軽減し、乗員の保護が十分にできる助手席用エアバッグ装置の提供を目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】 請求項 1 の発明は、インストルメントパネルカバーの助手席と対向する部分の裏面側に、エアバッグ本体が収容してあるエアバッグケースの開口部を配設した助手席用エアバッグ装置において、前記バッグケースの開口部と対向する蓋板を前記カバーと一体に形成し、前記蓋板に強度を低下させた外周縁部の内側に金属製の蓋補強板の主体を熱かしめ固定し、前記主体から上方に延びる蓋補強板のヒンジ部から延びる部分をブラケットを介して前記バッグケースに固定し、前記バッグ本体の膨張展開時に前記ヒンジ部が

折れ曲がって前記蓋板が開くようにしたものである。

【0007】請求項2の発明は、請求項1に記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋板の外周縁部の周方向の全体にわたり、レーザ加工による多数の貫通孔を所要間隔で形成し、あるいは溝を形成してエアバッグ本体の膨張展開時に蓋板が確実に開くようにしたものである。

【0008】請求項3の発明は、請求項1または2に記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板が、左右方向に長いほぼ長方形の主体の左右方向中央部上方に、主体より左右方向寸法が短いヒンジ部を延ばしたものである。

【0009】請求項4の発明は、請求項1～3のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置において、前記ブラケットは、全体をほぼコ字状に形成し、左、右両端部にはそれぞれエアバッグ本体と結合する取付孔を設けた取付部を有し、かつ各取付部の延長端を屈曲形成して左、右立ち上がり部を設け、該立ち上がり部の上端連結部を前記締結具および前記蓋補強板のヒンジ部と結合するようにしたものである。

【0010】請求項5の発明は、請求項1～4のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板の主体に、上下方向に長い左右複数の補強用の凹部を所要間隔で形成し、前記凹部間および左、右端の凹部外側にそれぞれ多数の上下方向に複数組形成し、各長孔に合成樹脂の成形品からなるインストルメントパネルカバーの裏面部を熱かしめして融着固定したものである。

【0011】請求項6の発明は、請求項1～5のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板のヒンジ部から裏面側に曲げさらに上方に曲げて延びる立ち上がり部、および締結具の先端部をブラケットの左、右立ち上がり部に固定し、ブラケットの取付部をエアバッグケースの上部に固定し、締結具の基端部をインストルメントパネルカバーのボス部に固定し、前記カバーと前記コアと蓋板とによって囲んだ内部にエアバッグケースを保持させたもので、前記エアバッグケース内のエアバッグケース展開時に前記ボス部が折れることで、前記カバーの変形、あるいは破損による破片の飛散を防止できるようにしたものである。

【0012】

【発明の実施の形態】この発明の一実施形態に係る助手席用エアバッグ装置につき、図を参照して説明する。図2、図3に示すように、1はインストルメントパネルカバー、2はインストルメントパネルコアであり、これらは合成樹脂の成形品によって構成した左ハンドル用のものである。

【0013】前記カバー1の右側部の助手席と対向する部分には、蓋板4を一体に成形し、その外周縁部4dには、レーザ加工によって多数の貫通孔4eを適宜の間隔で破線状または点線状に周方向の全体に形成してあり、

また蓋板4は左右方向に長いほぼ長方形に形成してある。

【0014】前記カバー1と、このカバー1の前側にはインストルメントパネルコア2とがビス12止めなどの適宜の手段で固定してあり、前記カバー1の蓋板4と前記コア2の右側部の下部との間にエアバッグケース3が配置してあり、このケース3は蓋板4の裏面（前面）側に固着した蓋補強板5の主体5a裏面側に対向させて長形状の開口部3aを形成してある。前記ケース3内にはエアバッグ本体6を折り畳むなど小型にした状態で収容し、エアバッグ本体6にはインフレーター（ガス発生器）を接続してケース3内に設置してある。そして、ケース3の開口部3aにはエアバッグ保護カバー3bが配設されており、エアバッグ6の不使用時にはみ出しを防止するようになっている。前記エアバッグ保護カバー3bは化学繊維製の薄布であり、エアバッグ6展開時は簡単に破れるようになっている。

【0015】前記蓋板4および図4に示す蓋補強板5の主体5aは横断面を後側に若干湾曲した形状とし、蓋板4の外周縁部4dより内側に主体5aを幾分小さく形成し、主体5aの上側の左右方向中央部には主体5aより左右方向寸法が短いヒンジ部5bを形成し、前記主体5aには、左右方向に適宜の間隔で複数の補強用の凹部5cを幅（上下）方向に長く形成し、前記凹部5c間および左、右端の凹部5c外側に、上下方向に長い長孔5dを上下複数ずつ左右に近接させて一組としかつこれらの上下多数組を配置し、前記カバー1の蓋板4の裏面（前面）側に形成した上下方向に長い凸条を、前記長孔5dに予め熱かしめによって固定してある。そして、蓋補強板5のヒンジ部5bは、裏面側に曲げた中間部5eを介して上方に立ち上がり部5fを延長させてある。

【0016】前記ケース3の開口部3aに近い上面部には、左、右が連結されると共に、全体がほぼコ字状に形成されたブラケット7が配設され、前記ブラケット7の左、右取付部7aをビス8によって前記ケース3の裏面側に締め付け固定し、ブラケット7の左、右立ち上がり部7bを介して、これらの上端連結部7cを蓋補強板5のヒンジ部5bに連なる立ち上がり部5fを支持させ、締結具9の横断面L字状の先端部9aを蓋補強板5のヒンジ部5bおよび立ち上がり部5fに後側および外側から支持し、前記ブラケット7の連結部7cと蓋補強板5の立ち上がり部5fおよび締結具9の先端部9aをボルト10あるいはナット11で固定してある。

【0017】前記締結具9は、先端部9a以外の部分を左、右に分離し、左、右基端部9bを前記カバー1のボス部1aの後側部に支持させ、これらに前側からビス12aを挿通して前記カバー1のボス部1aに締結具9の左、右基端部9bを締め付け固定してある。前記コア2の下部の後側部下面にはコア補強板13を重ねて、前記カバー1の蓋板4下方の前側に突出する突起部1cに支

持し、ビス 1 4 を前側からコア補強板 1 3 及び前記カバー 1 に挿通して、これらを突起部 1 c に左、右 2 箇所固定してある。なお、2 a はコア 2 に形成した開口部で、この開口部 2 a を利用して、エアバッグケース 3 を図面左下方よりインストルメントカバー 1 の裏面側に配設するようになっている。

【0018】前記コア補強板 1 3 の前側部上に前記コア 2 を介して支持板 1 5 を支持し、下方からボルト 1 6 をコア補強板 1 3、前記コア 2 および支持板 1 5 に挿通して、これらをボルト 1 6 に嵌めたナット 1 7 を締め付け固定し、支持板 1 5 の後端部上にエアバッグケース 3 の下部を支持固定させてある。なお、支持板 1 5 は、前側に前記コア 2 に遊び嵌めして前側に突出させ、前記ケース 3 の外側に配置してインフレーターからのガス吹き込み用パイプ 1 8 を、ケース 3 に位置決めするために、前10 端部を前記コア 2 に固定した帯状体 2 1 の後側端部を、支持板 1 5 の前端部にボルト 1 9 とナット 2 0 によって締め付け固定してある。なお、蓋補強板 5 は 0.5 mm、ブラケット 7 は 1.5 mm、締結具 9 は 1.0 mm、コア補強板 1 3 は 1.0 mm、支持板 1 5 は 1.5 mm の厚さの鉄板によって形成してある。

【0019】前述した一実施形態に係る助手席用エアバッグ装置は、図 2、図 5 に示すように、エアバッグ本体 6 が折り畳まれた状態で、エアバッグケース 3 とインストルメントパネルカバー 1 と一体に成形された蓋板 4 との間に小型にして収容されており、かつ、エアバッグケース 3 の開口部 3 a に設けた保護カバー 3 b を、蓋補強板 5 の凹部 5 c により押圧した状態で規制しているため、エアバッグ 6 のはみ出しを防止でき、さらに、前記凹部 5 c は衝撃試験での蓋 4 の補強となると共に、エアバッグ 6 の展開時にエアバッグ 6 が蓋補強板の熱かしめ溶着部と接触するのを防止できる。また、前記カバー 1 の一部によって蓋板 4 を構成しているので、体裁がよい。

【0020】そして、自動車などの車両が衝突した際には、その程度を図示省略した従来公知のセンサが判断して、信号をインフレーター（ガス発生器）に送り、これの作動によって発生したガスがエアバッグ本体 6 内に供給されることで、このバッグ本体 6 がバッグ保護カバー 3 b を破って、膨張展開し、助手席の乗員の胸部や頭部を拘束し、助手席の乗員を保護して、その安全性を確保する。

【0021】すなわち、ガスによってエアバッグ本体 6 が膨張展開すると、前記カバー 1 と一体に成形された蓋板 4 を外側に押し、図 5 の状態から図 6 に示すように、蓋板 4 とこれの裏面に固着された蓋補強板 5 の主体 5 a とが一体に開いて、主体 5 a の上方に連なるヒンジ部 5 b が締結具 9 の屈曲延長部 9 c の端部より折り曲げられると共に、基端部 9 b と固定したカバー 1 のボス部 1 a が折れ、カバー 1 の変形あるいは破損による破片の

飛散を防止し、膨張展開したエアバッグ本体 6 の一部がカバー 1 の後側に膨出して、助手席の乗員の胸部や頭部が前記カバー 1 や蓋補強板 5 の主体 5 a に激突することを緩衝する。

【0022】なお、エアバッグ本体 6 の膨張展開時は、エアバッグケース 3 に圧力が加わり、開口部 3 a が変形するが、開口部 3 a の裏側に固定したブラケットが左右を連結した一体構成のコ字状であるため、ブラケットの左右の連結部が湾曲して変形を吸収することで、蓋補強板のヒンジ部に生じるねじれ等の悪影響を防止する。

【0023】この際、蓋板 4 の外周縁部 4 d の周方向全体にわたって多数の貫通孔 4 e を形成することで、外周縁部 4 d の強度低下させてあり、蓋補強板 5 の主体 5 a 上方に連なるヒンジ部 5 b が主体 5 a より短い左右方向寸法にしてあるので、蓋板 4 と、蓋補強板 5 の主体 5 a とが上方に大きな角度で反転して確実に開くと共に、多数の貫通孔 4 e によって蓋板 4 外周側の前記カバー 1 が破損し、シャープなエッジの発生や、破片の飛散を防止することができ、助手席の乗員の保護ができる。

【0024】また、蓋補強板 5 のヒンジ部 5 b を、ヒンジ部 5 b から延長した立ち上がり部 5 f を前記ブラケット 7 の左、右立ち上がり部 7 b の連結部 7 c および締結具 9 の先端部 9 a にそれぞれ固定したので、エアバッグ本体 6 の膨張展開時に、ヒンジ部 5 b が締結具 9 の屈曲延長部 9 c を介して蓋板 4 の上縁と平行に折れ曲がり、蓋板 4 を大きくかつ確実に開くことができる。

【0025】さらに、蓋補強板 5 のヒンジ部 5 b から立ち上がり部 5 f を延長させて締結具 9 の先端部 9 a と重ねてブラケット 7 の左、右端部の立ち上がり部 7 b の連結部 7 c にボルト 1 0、ナット 1 1 によって連結することで、エアバッグ本体 6 の展開によってヒンジ部 5 b が蓋板 4 の上縁と平行に折れ曲がり、蓋板 4 を確実に開くのに役立ち、また、装置の組み立てを容易にできる。

【0026】この発明において、前記実施形態では、左ハンドルの自動車の場合について説明したが、右ハンドルの自動車などの車両にも助手席用エアバッグ装置を左右対称に構成すればよい。また、前記実施形態では、蓋板の外周縁部に貫通孔を形成したが、これらに代えて前記外周縁部の表、裏面の少なくとも一方に周方向に溝を形成して蓋板を折り取りやすくしてもよい。また、前記実施形態においては、ブラケット 7 を左、右一体構成のものを使用したか、左、右独立した別体構成でもよいことは勿論である。

【0027】

【発明の効果】以上説明したように、請求項 1 の発明は、バッグケースの開口部と対向する蓋板をインストルメントパネルカバーと一体に形成したので、従来の蓋板と前記カバーとが別体のものに比べ、自動車などの車両の室内側から見た前記カバー部分の体裁がよい。

【0028】また、蓋板に強度を低下させた外周縁部を形成し、蓋板裏面の前記外周縁部より内側に金属性の蓋補強板の主体を熱かしめ固定し、前記主体から上方に連なる蓋補強板のヒンジ部をブラケットを介してエアバッグケースに固定し、自動車などの車両の衝突時に、前記ケース内に収容したエアバッグ本体内にガスを送り、前記バッグ本体が膨張展開することで、前記カバーと一体に成形された蓋板の主体とが一体に開き、主体の上方に連なる蓋補強板のヒンジ部が折れ曲がって前記蓋板が開き、前記バッグ本体の一部が後側に膨出して助手席の乗員の胸部や頭部が前記蓋板や蓋補強板の主体に衝突するのを緩衝する。このため、助手席の乗員が受けるダメージを軽減でき、また、前記カバーが破損し、シャープなエッジの発生や破片の飛散を防止でき、前記乗員の保護が十分にでき、安全性を確保できる。

【0029】請求項2の発明は、請求項1に記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋板の外周縁部の周方向の全体にわたり、レーザ加工による多数の貫通孔を所要間隔で形成し、あるいは溝を形成してエアバッグ本体の膨張展開時に蓋板が確実に開くようにしたので、エアバッグ本体の膨張展開時に誤作動がなく安全性が向上し、また蓋板の外周縁部がきれいに破断し、シャープなエッジや破片の発生を抑制できて好ましい。

【0030】請求項3の発明は、請求項1または2に記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板が、左右方向に長いほぼ長方形の主体の左右方向中央部上方に、主体より左右方向寸法が短いヒンジ部を延ばしたので、エアバッグ本体の膨張展開時に蓋板および蓋補強板がより容易に開くので、好ましい。

【0031】請求項4の発明は、請求項1～3のいずれかに記載のエアバッグ装置において、前記ブラケットは、全体をほぼコ字状に形成し、左、右両端部にはそれぞれエアバッグ本体と結合する取付孔を設けた取付部を有し、かつ各取付部の延長端を屈曲形成して左、右立ち上がり部を設け、該立ち上がり部の上端連結部を前記締結具および前記蓋補強板のヒンジ部に結合するようにした構成としたので、エアバッグの展開時、エアバッグケースに加わる衝撃によるエアバッグケースの開口部の変形を防止すると共に、蓋補強板のヒンジ部のねじれを防止し、かつヒンジ部の折れ曲がりに悪影響をおよぼすことがなく、確実に平行に開き、安全性が向上できる。

【0032】請求項5の発明は、請求項1～4のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板の主体に、上下方向に長い左右複数の補強用の凹部を所要間隔で形成し、前記凹部間および左、右端の凹部外側にそれぞれ多数の上下方向に複数組形成し、各長孔に合成樹脂の成形品からなるインストルメントパネルカバーの裏面部を熱かしめして融着固定したので、エアバッグ本体の膨張展開時に、蓋板が器物に衝突しても蓋板

と蓋補強板とが分離するようなことがない。

【0033】請求項6の発明は、請求項1～5のいずれかに記載の助手席用エアバッグ装置において、蓋補強板のヒンジ部から裏面側に曲げさらに上方に曲げて延びる立ち上がり部、および締結具の先端部をブラケットの左、右立ち上がり部の連結部に固定し、ブラケットの取付部をエアバッグケースの上部に固定し、締結具の基端部をインストルメントパネルカバーのボス部に固定し、前記カバーと前記コアと蓋板とによって囲んだ内部にエアバッグケースを保持させたので、エアバッグケース内のエアバッグ展開時に前記ボス部が折れた状態でも、前記カバーの変形、あるいは破損による破片の飛散を防止すると共に、エアバッグ本体の膨張展開時に蓋補強板のヒンジ部が蓋板の上縁と平行に折れ曲がり、蓋板を大きくかつ確実に開くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】従来の助手席用エアバッグ装置を示した横断面図。

【図2】この発明の一実施形態に係る助手席用エアバッグ装置を示した要部の分解斜視図。

【図3】図2に示した助手席用エアバッグ装置の横断面図。

【図4】図2に示した助手席用エアバッグ装置の蓋補強板、締結具およびブラケットの拡大斜視図。

【図5】図1に示した助手席用エアバッグ装置の非作動時の要部の説明図。

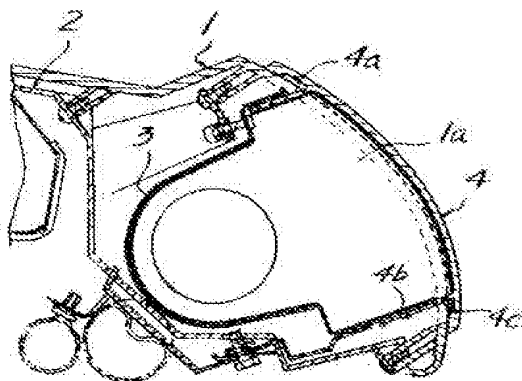
【図6】図1に示した助手席用エアバッグ装置の作動時の要部の説明図。

【図7】図1に示した助手席用エアバッグ装置の作動時の拡大説明図。

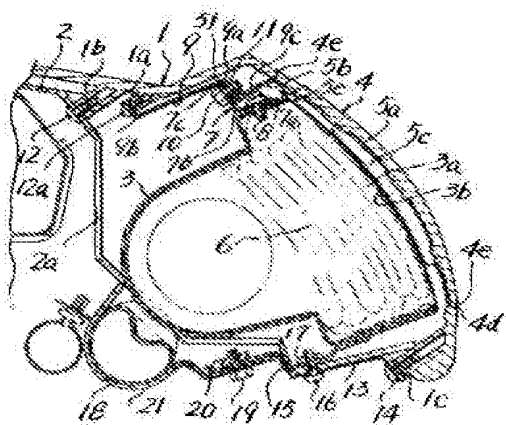
【符号の説明】

- | | |
|-----|----------------|
| 1 | インストルメントパネルカバー |
| 2 | インストルメントパネルコア |
| 3 | エアバッグケース |
| 3 a | 開口部 |
| 4 | 蓋板 |
| 4 d | 外周縁部 |
| 4 e | 貫通孔 |
| 5 | 蓋補強板 |
| 5 a | 主体 |
| 5 b | ヒンジ部 |
| 5 c | 凹部 |
| 5 d | 長孔 |
| 5 f | 立ち上がり部 |
| 6 | エアバッグ本体 |
| 7 | ブラケット |
| 7 a | 左、右取付部 |
| 7 b | 立ち上がり部 |
| 7 c | 連結部 |
| 9 | 締結具 |

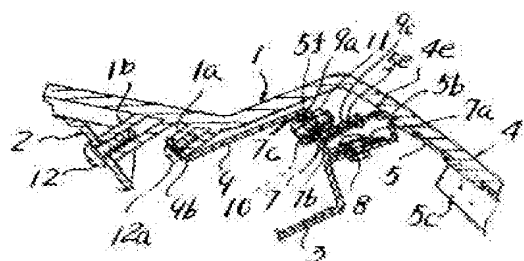
【図1】



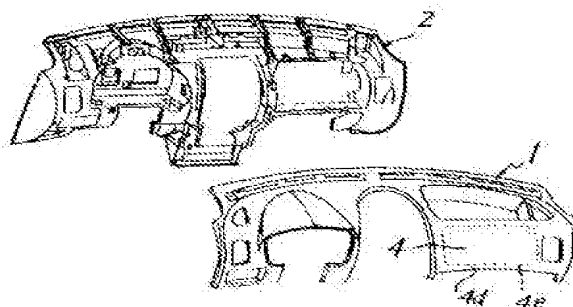
【図3】



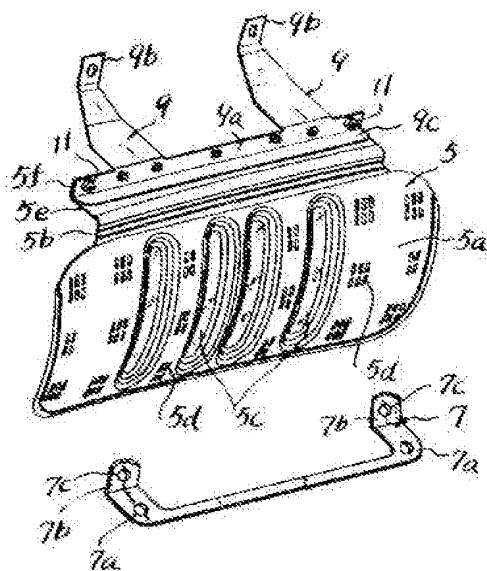
【図5】



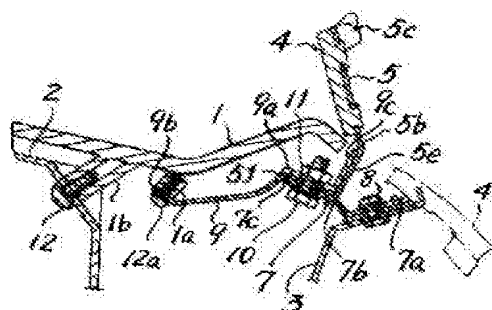
【図2】



【図4】



【図6】



(7)

特開平11-198752

【図7】

